

女性も働きやすいオフィスのありかた

2018.03.13

森ビル株式会社

都市開発本部 計画企画部 統括部長補佐
計画推進部 部長 大森みどり

女性が働きやすいオフィス



女性も働きやすいオフィスビル



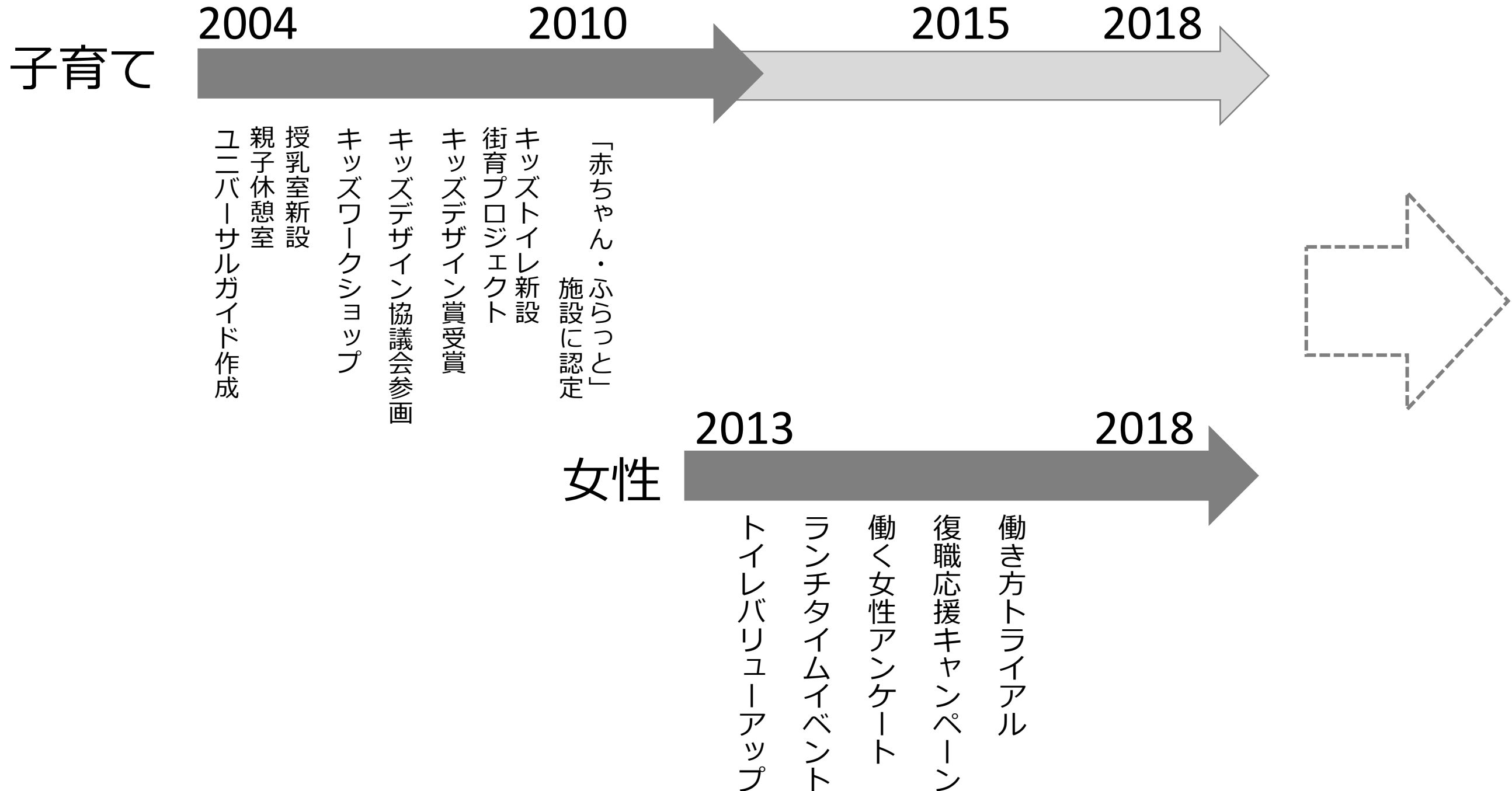
誰もが働きやすい街

1. これまでの取組み
2. 働く女性のワーク・ライフ調査

1. これまでの取組み

2. 働く女性のワーク・ライフ調査

社会の変化に対する社内の声、ユーザーやテナント要望をきっかけに
 “子育て”と“女性”の両面からヒルズのあり方を見直してきた



おやこ休憩室・授乳室・ベビーカー貸出

子供の世話ができる無料のおやこ休憩室や、キッズエリアやレストランエリアに授乳室を設置。体重15kgまで対応可能な2種類のベビーカーを用意。



おやこ休憩室（ベビーエリア）



授乳室・おむつ交換所



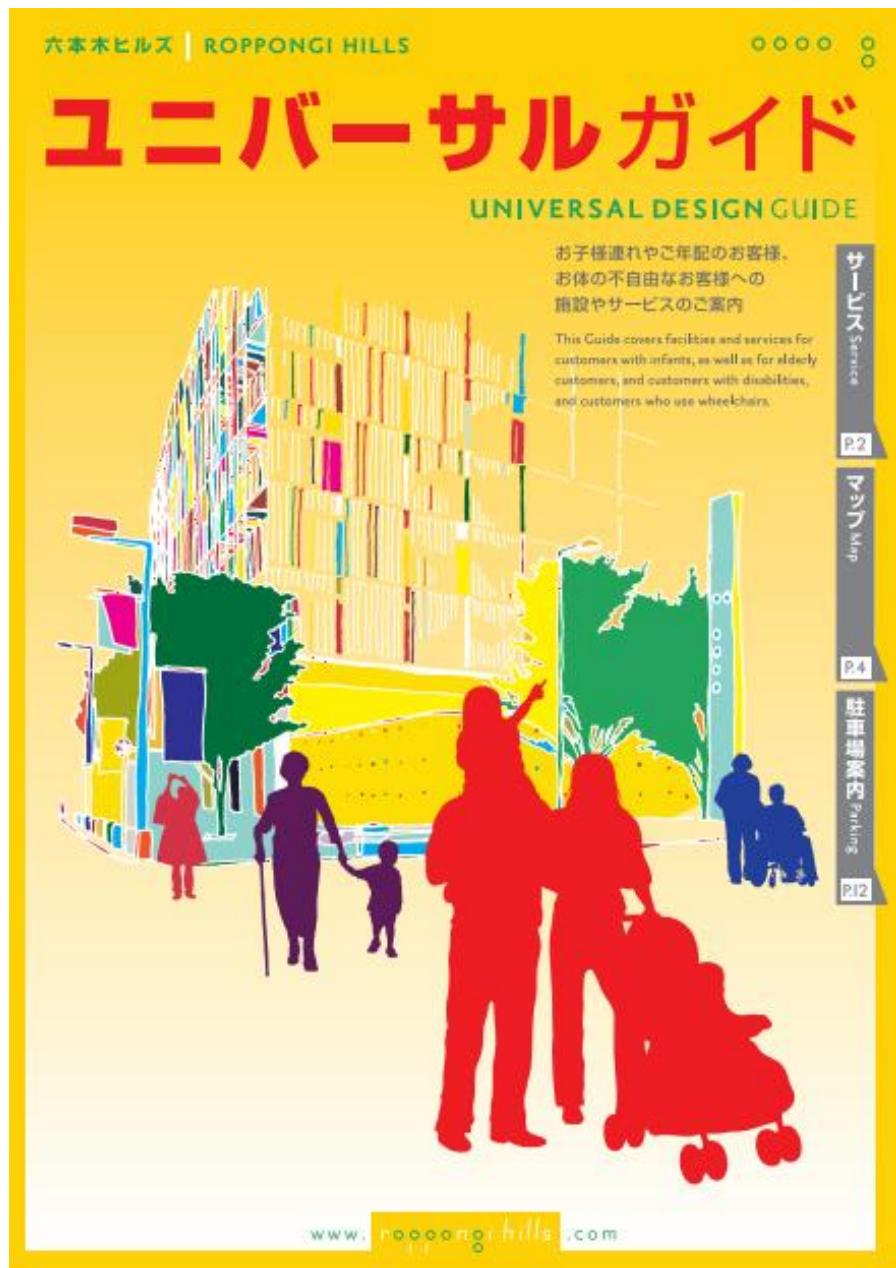
おやこ休憩室（遊び場）



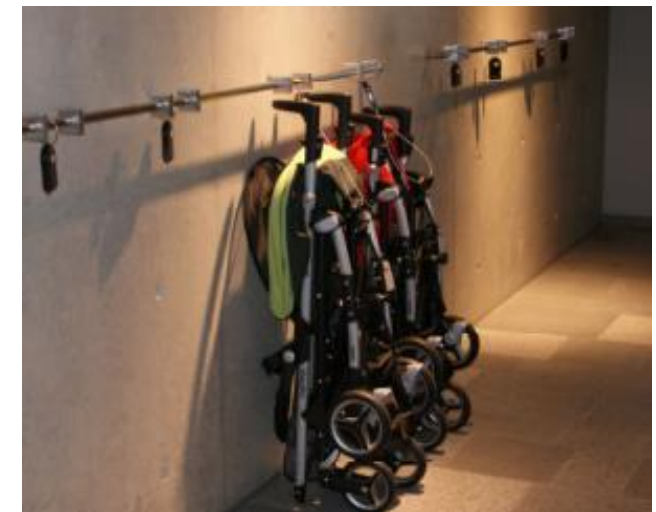
2種類のベビーカー

ユニバーサルガイド

子供連れや年配、体の不自由な方向けの施設ガイド。ベビーカー、車椅子でのスムーズな動線も示す。
 (Webでも配布中)



子供トイレ



ベビーカー置場



車いす・ベビーカー休憩スペース

キッズ向けサービス

1. 子供向けメニュー

各レストランが用意する子供向けメニューはアレルギー表示付きで案内。



2. ママズクラブシアター

小さな子供と一緒に家族のみの入場とすることで、子供と一緒に気兼ねなく映画を楽しめる環境を提供。



ヒルズ街育プロジェクト

第2～4回キッズデザイン賞受賞

様々な街づくりのノウハウを活用して、未来を担う子供達と共に楽しく学びながら次世代の都市のあり方を考えていこうという試みです。



KIDS DESIGN AWARD
受賞作品検索
キッズデザイン賞サイト TOP | キッズデザイン協議会サイト TOP

六本木ヒルズの水の“ヒミツ”探検ツアー
受賞番号 080147

企業名/団体名	森ビル株式会社
対象	環境教育
受賞年度	2008年度(第2回)
デザインミッション	子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン
カテゴリー・応募分野	コミュニケーション、コミュニケーションデザイン分野
賞名	キッズデザイン賞

開発の考え方

8/10「水の日」に合わせ未来を担う子どもたちに水資源の大切さを楽しみながら学んでもらうことを目的とし、六本木ヒルズの水の有効活用について、施設の裏側である各設備を見学し、説明する体験学習ツアー。ビルの裏側を探検するという特別感・ワクワク感を持たせながら、夏休みの自由研究としても活用できるよう企画。

審査委員コメント

六本木ヒルズにおける水資源活用をツアー形式で学ぶプログラム。普段は見られない施設の裏側を散策、レクチャー前には子どもたちにワークシートを配布、夏休みの自由研究にも使えるように工夫している。企業は自分の体の中を見せるというのはあまりしてこなかったが、バックヤードを見せるという試みは子どもの気づきの面でも非常に重要である。

仕様

- 開催場所: 六本木ヒルズ
- 参加対象者: 各回 親子10組(対象年齢小学校4年生～6年生)
- 参加費: 無料

※掲載している情報は、受賞当時の情報です。現在の情報とは異なる場合があります。

< 検索結果一覧へ戻る
受賞作品検索トップへ
▲ ページの先頭へ

キッズワークショップ

第6回キッズデザイン賞受賞

“ヒルズ”の街を舞台に、各界のエキスパートを講師に迎える『キッズワークショップ』。
“子どもにこそ世界最先端の学び”をテーマに、毎年約400近くにも上る講座を開設。



森美術ラーニング

年齢に合わせて現代アートを通した様々な学びのプログラム



「N・S・ハルシャ展」ラーニングプログラム
「フューチャー：未来の夢」行進 in 六本木ヒルズ



「レアンドロ・エルリッヒ展」ラーニングプログラム
「キッズワークショップ：レアンドロさんと一緒に」

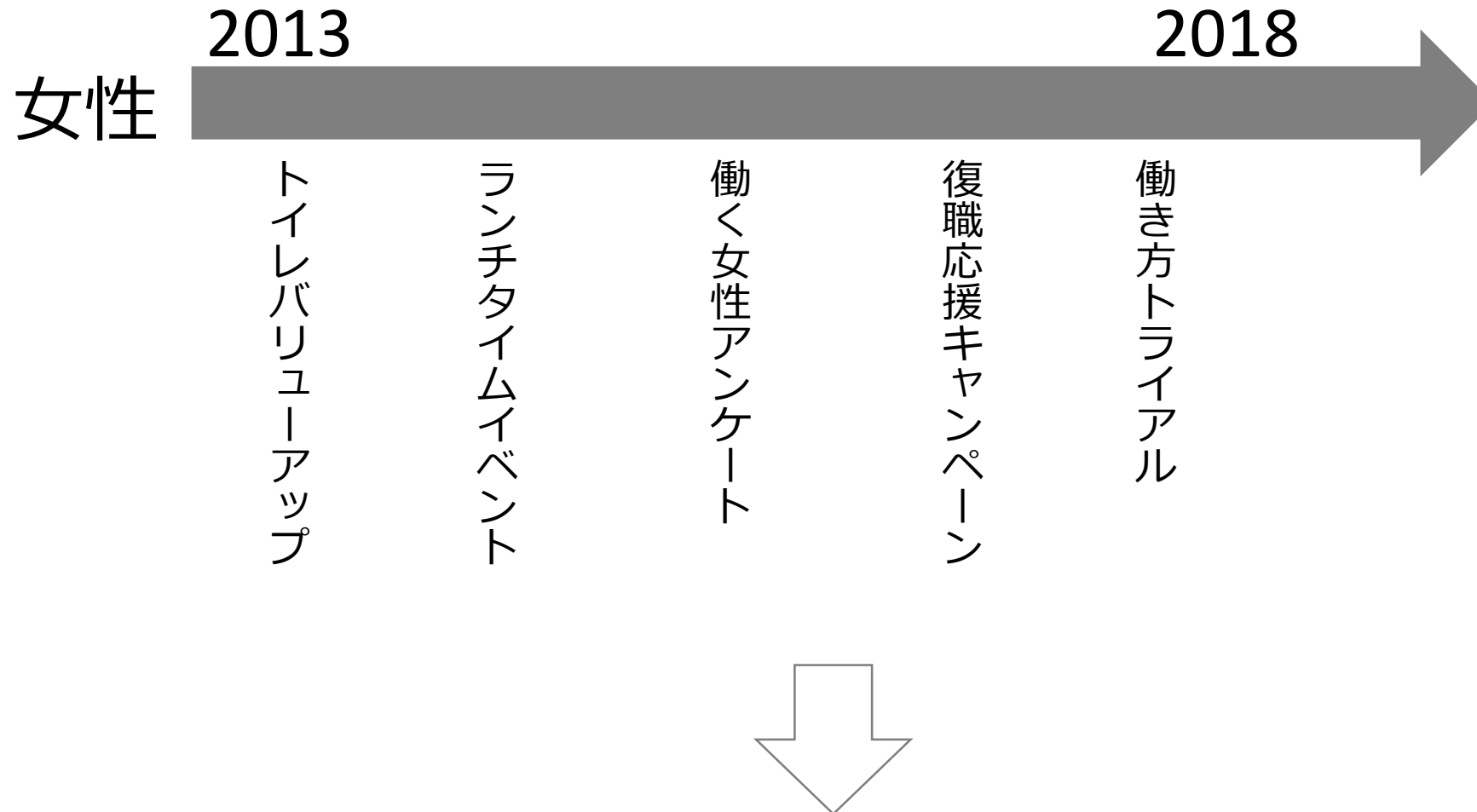


「サンシャワー展」ラーニングプログラム
「キッズ・プログラム」：いろんな世代の人と一緒にアーティストに出会う



まちど美術館のプログラム
「こんなパブリックアートがあったら？」

社会の変化に対する社内の声、ユーザーやテナント要望をきっかけに
 "子育て"と"女性"の両面からヒルズのあり方を見直してきた



2013年より、オフィスワーカーのビジネス面だけでなく、
 生活もサポートする街づくりを目指した取り組みを開始

トイレをバリューアップ

部署横断の女性社員でワークショップを実施。トイレの使い方や、理想のトイレについての議論を重ね、新しいトイレのあり方を提案、具現化。



オフィス共用部の女性トイレ



商業施設の女性トイレ

ワーキングマザーランチタイム交流イベント

「講座＋昼食＋交流」を昼休みの1時間に凝縮して実施



2013年度 クッキング



2014年度 絵本紹介



2014年度 ハンドトリートメント



2015年度 紅茶セミナー



2016年度 ヨガ



2017年度 ランチタイムセミナー

育休からの復職応援キャンペーン

1. 育休復職応援セミナー

オフィステナントで働く女性などに向けて、
復職同窓生がコミュニケーションを図る
イベントを開催



育休復職セミナー

2. 六本木ヒルズワーキングマザーファッション 店舗スタッフが薦めるワーキングマザーファッ ションを店頭および専用WEBサイトにて紹介



ROPPONGI HILLS WORKING MOTHER STYLE

Google Women Willが進める、「女性が働きやすくなる」アイデアを募集・実践していく「#HappyBackToWork」プロジェクト。六本木ヒルズでは、この着育休から復職する女性を応援するべく、各ショップスタッフが、トレンドも機能性も押さえたワーキングマザーファッションをご提案します。



ユニテッドアローズ 六本木 ウィメンズストア
UNITED ARROWS ROPPONGI WOMEN'S STORE

ビジネスシーンにはレディライクな戸をさわやかに着こなして



エストネーション
ESTNATION

技ありアイテムで仕上げるワークシックなパンツスタイル

Google Women Willプロジェクト(※)による「#HappyBackToWork WEEKS」キャンペーンと連動

※女性のテクノロジー活用を促進することで、各国の女性が直面する問題を解決するアジア太平洋地域全体の取り組み

ワーカーCS活動

1. 森ビルフットサルカップ

オフィスワーカーの交流を目的に2006年より開催。男女ミックスの試合方式により、女性ワーカーも含めた交流を促す。



2. ヒルズブレックファースト

2010年から始まる月に1回の朝のトークイベント。仕事やアイデアなどの情報を発信し、新たなネットワークの構築を目指す。



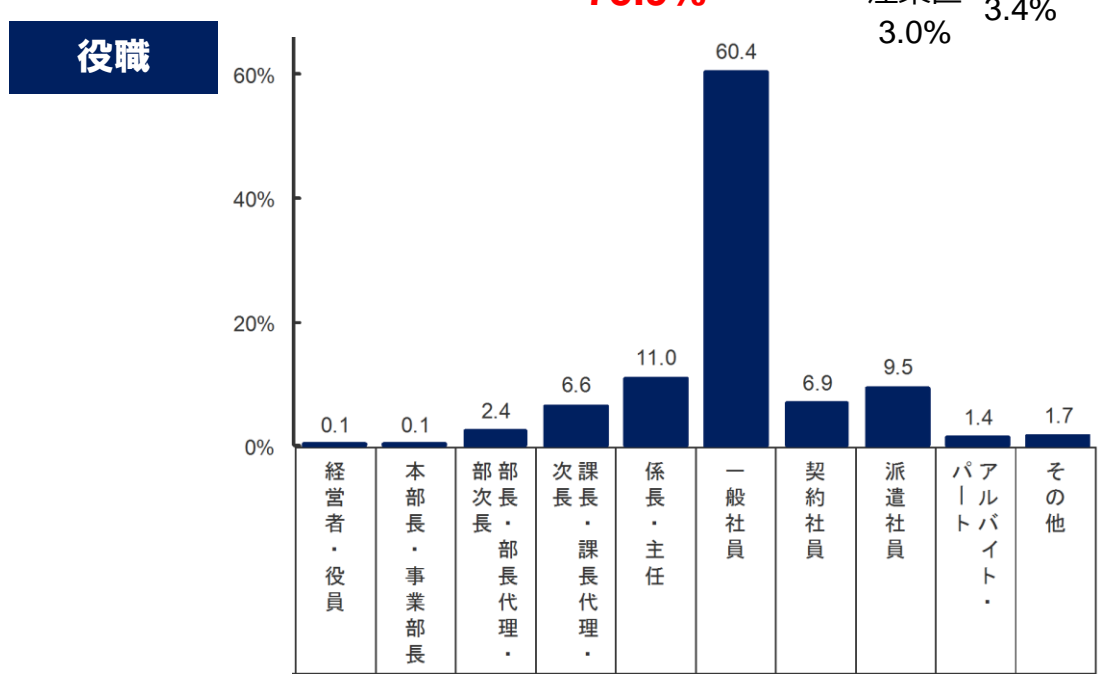
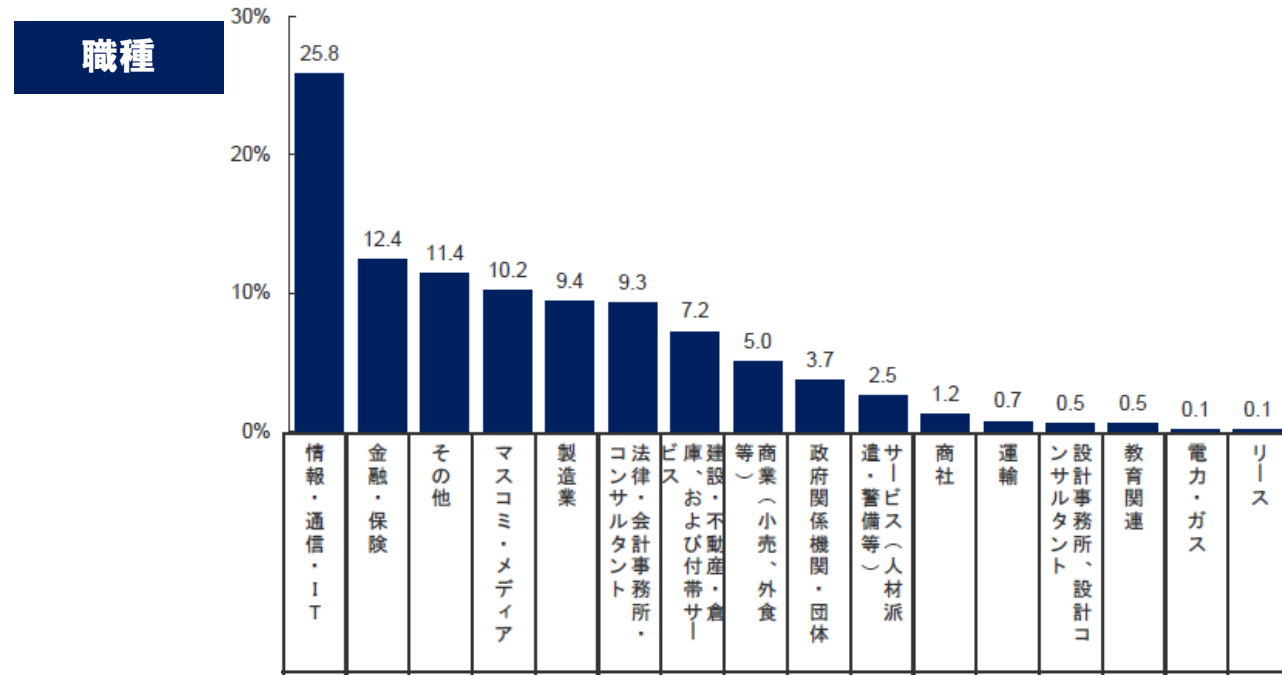
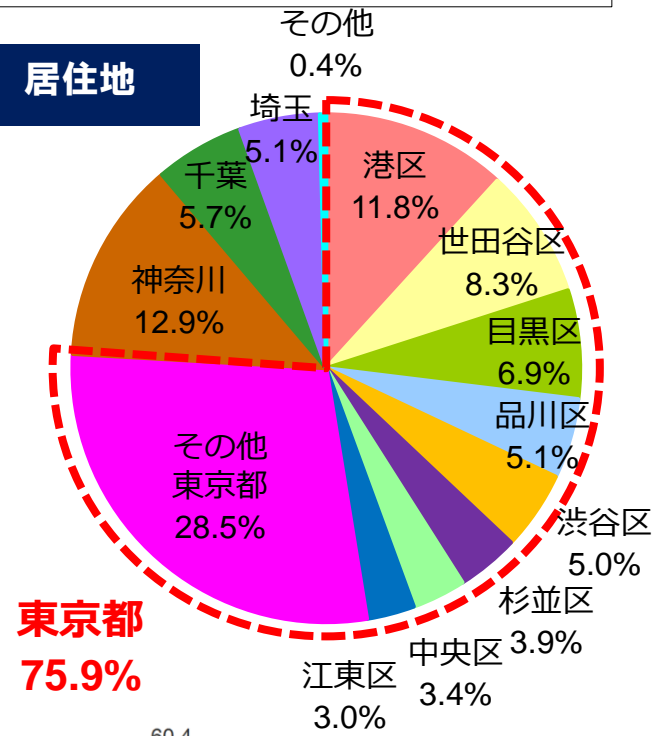
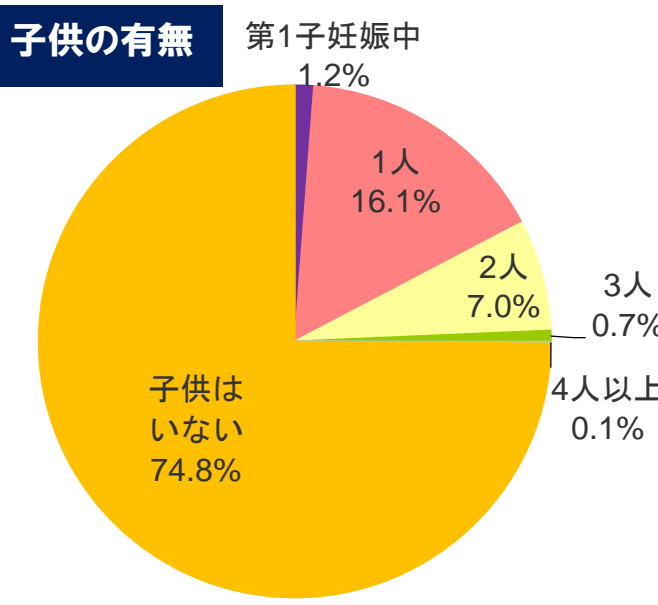
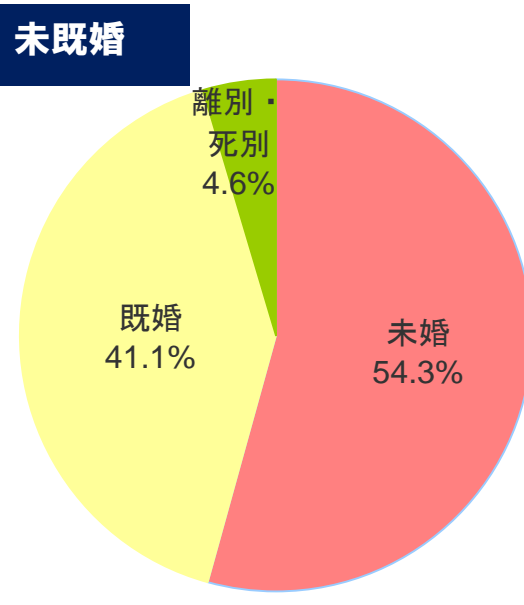
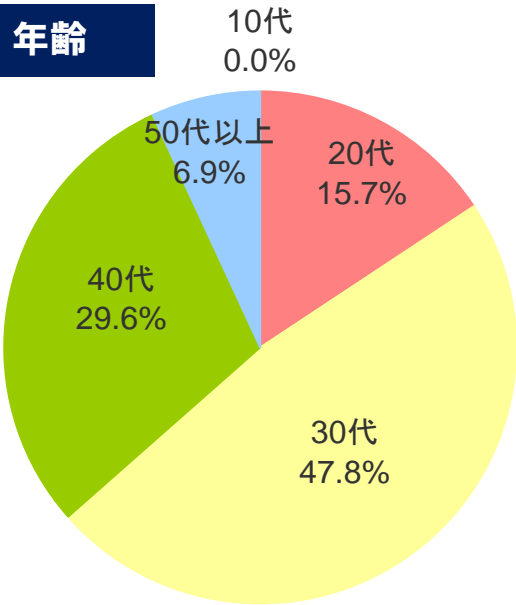
1. これまでの取組み

2. 働く女性のワーク・ライフ調査

働く女性のワーク・ライフに関する調査

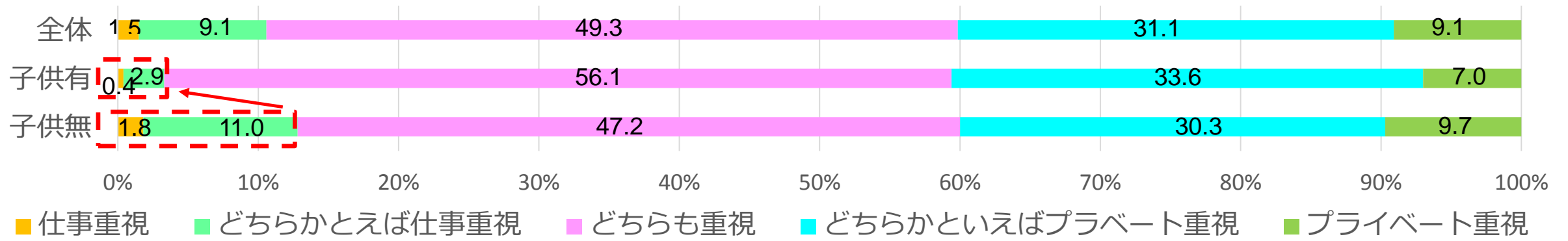
【調査概要】

対象者：森ビルのオフィスビル43棟に入居中の働く女性1,103人
 方法：オフィスメールマガジン読者約13,500名を対象としたWEBアンケート
 期間：2014年11月10日～11月23日
 ※ヒルズで働くワーカーの男女比率⇒ 6：4



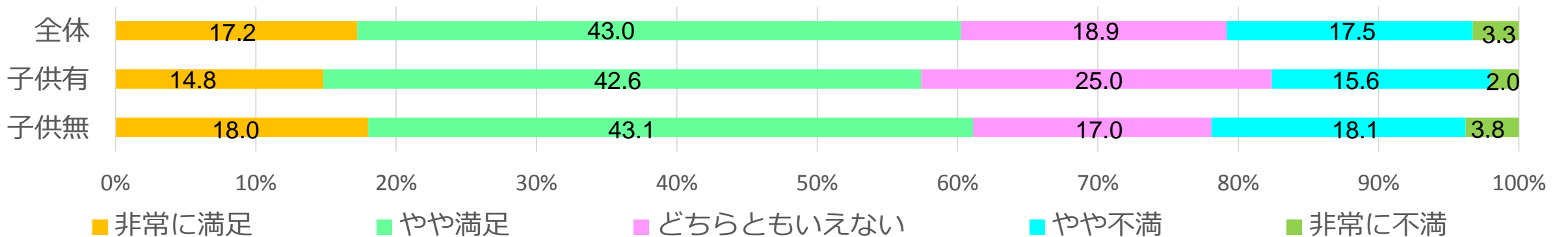
理想のワークライフバランス

- ◆全体では半数が「どちらも重視」と回答。
子供がいる人は仕事の優先度が下がり「どちらも重視」の割合が増える。



ワークライフバランスの満足度

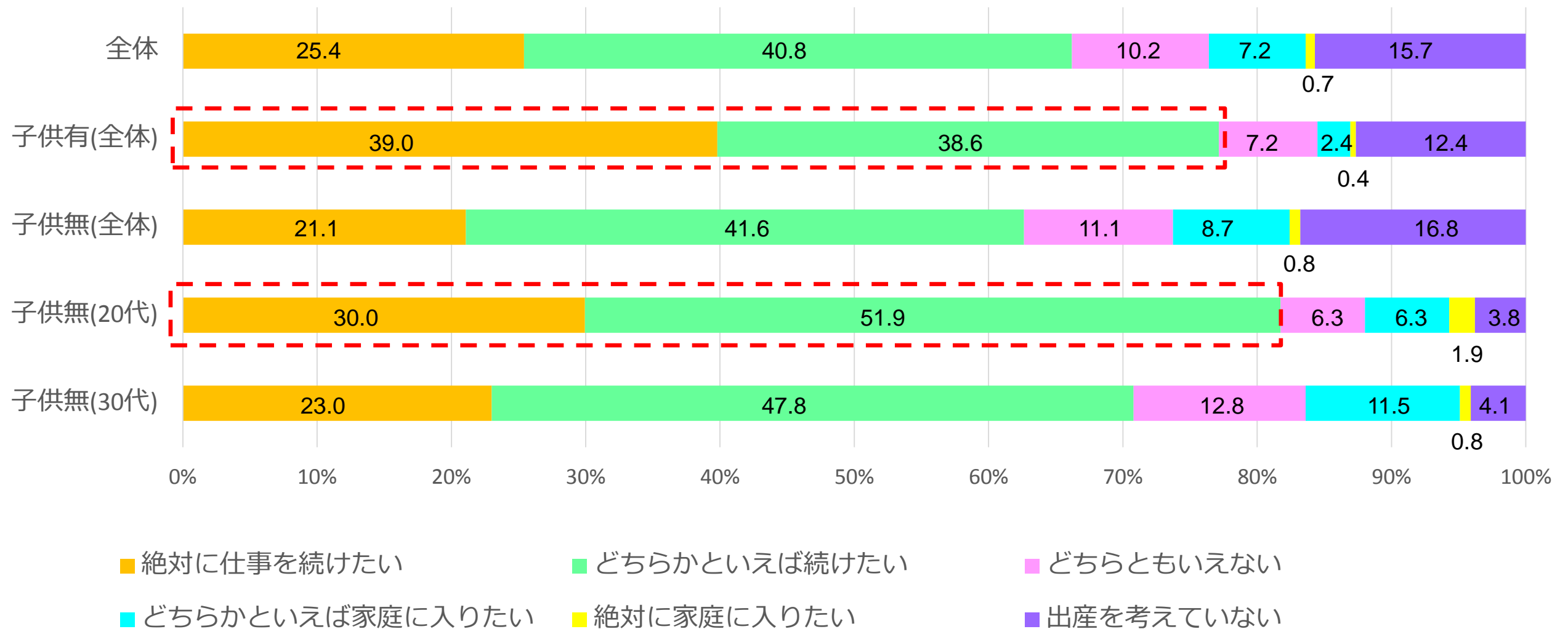
- ◆全体では「非常に満足・やや満足」60.2% 「非常に不満・やや不満」20.9%で、6割以上が満足と回答。



出産後も仕事を続けたいか？

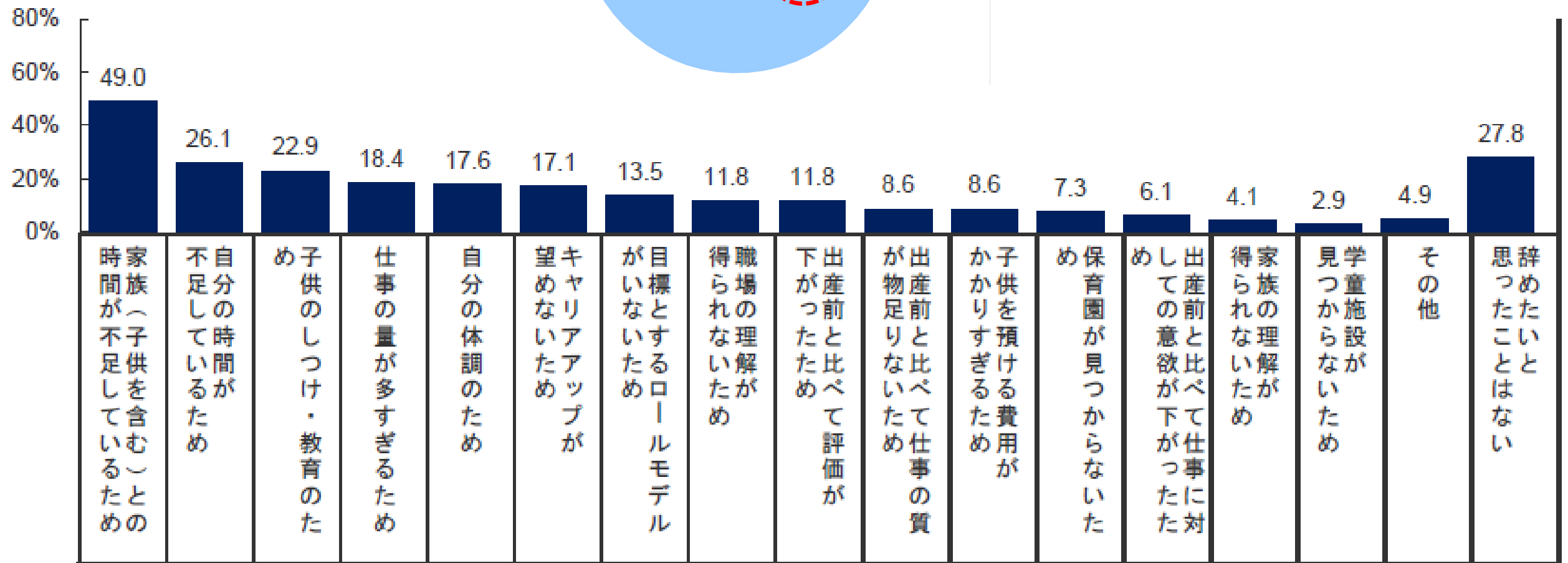
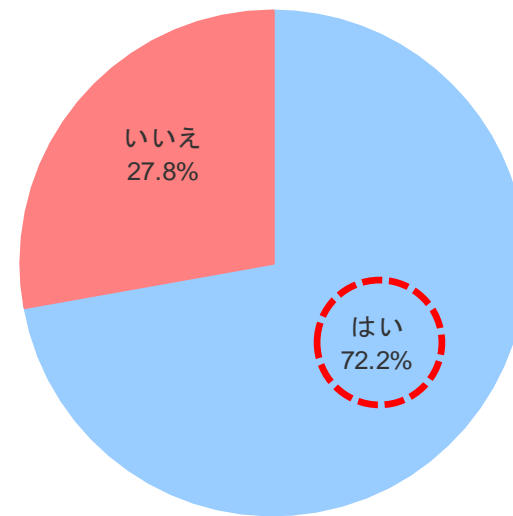
◆既に子供がいる人の77.5%が「仕事を続けたい」と回答。
「家庭に入りたい」と回答した人はわずか2.8%。

◆子供のいない20代と30代でも「仕事を続けたい」が圧倒的に多い。



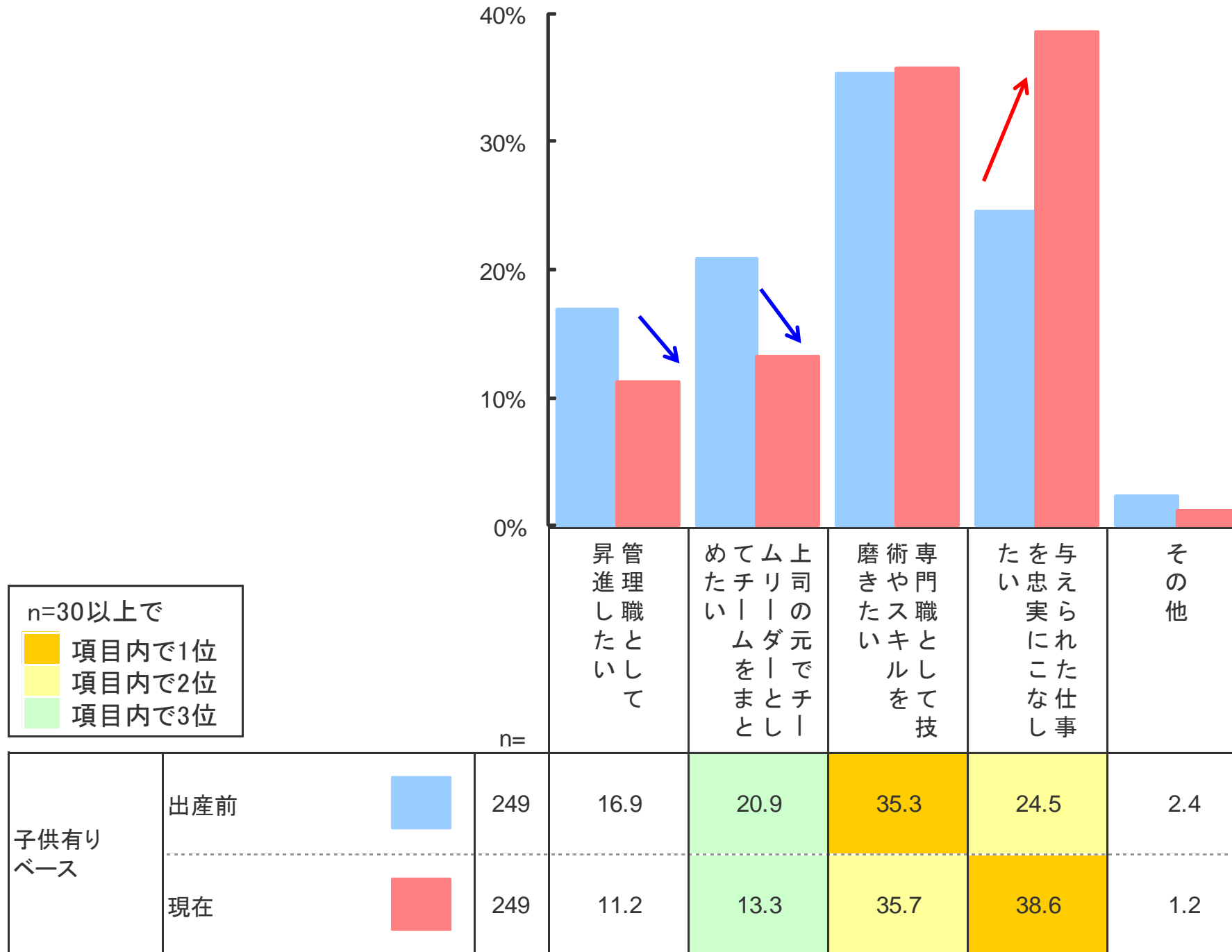
出産後に仕事をやめたいと思ったことがあるか？

- ◆72.2%が「出産後に仕事を辞めたいと思ったことがある」と回答。
- ◆辞めたいと思った理由は「家族と過ごす時間の不足、自分の時間の不足」が1位、2位。
- ◆「子供のしつけ・教育のため」が3位。



出産後のキャリアに関する意識の変化

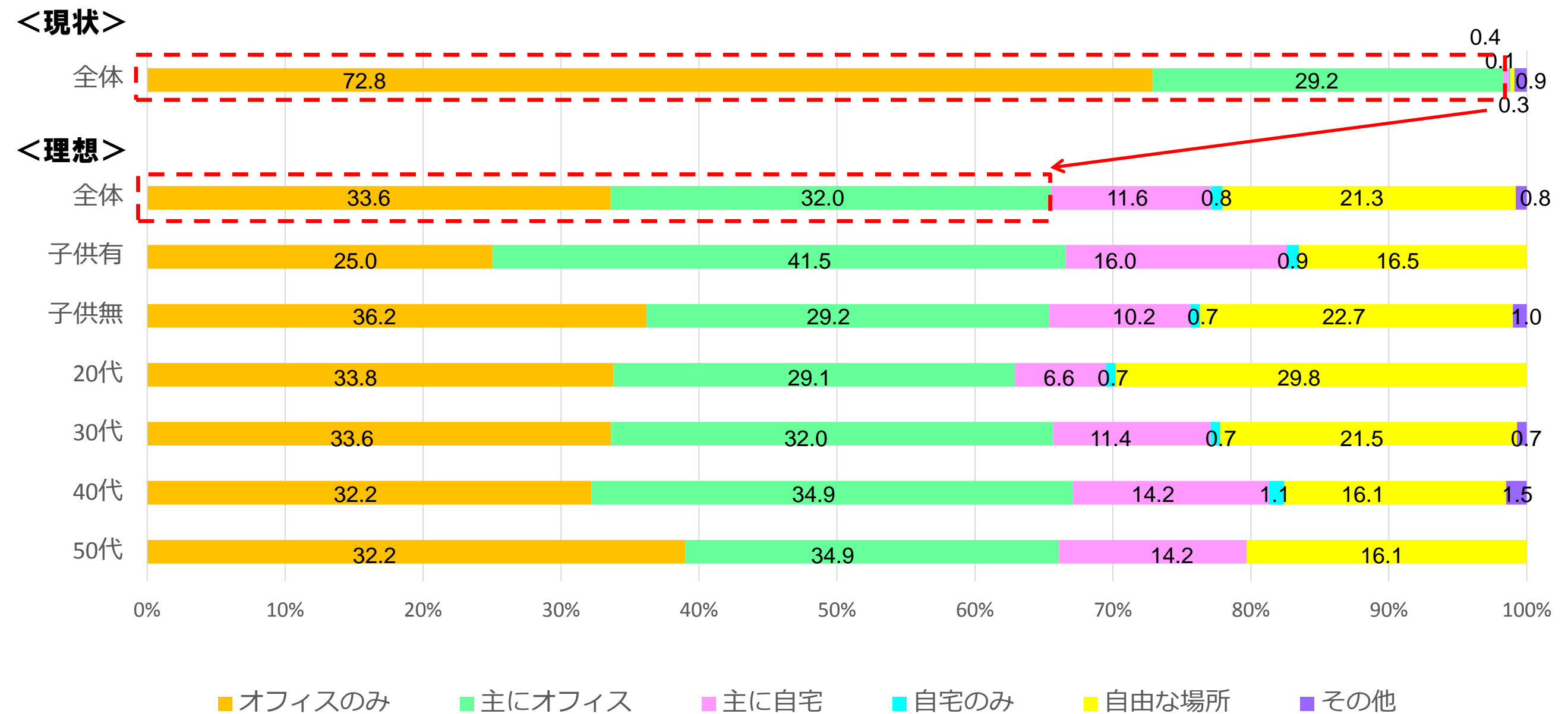
- ◆ 出産後は「管理職」「チームリーダー」志向が13%減少。
- ◆ 「与えられた仕事を忠実にこなしたい」が14%増加。



n=30以上で
 項目内で1位
 項目内で2位
 項目内で3位

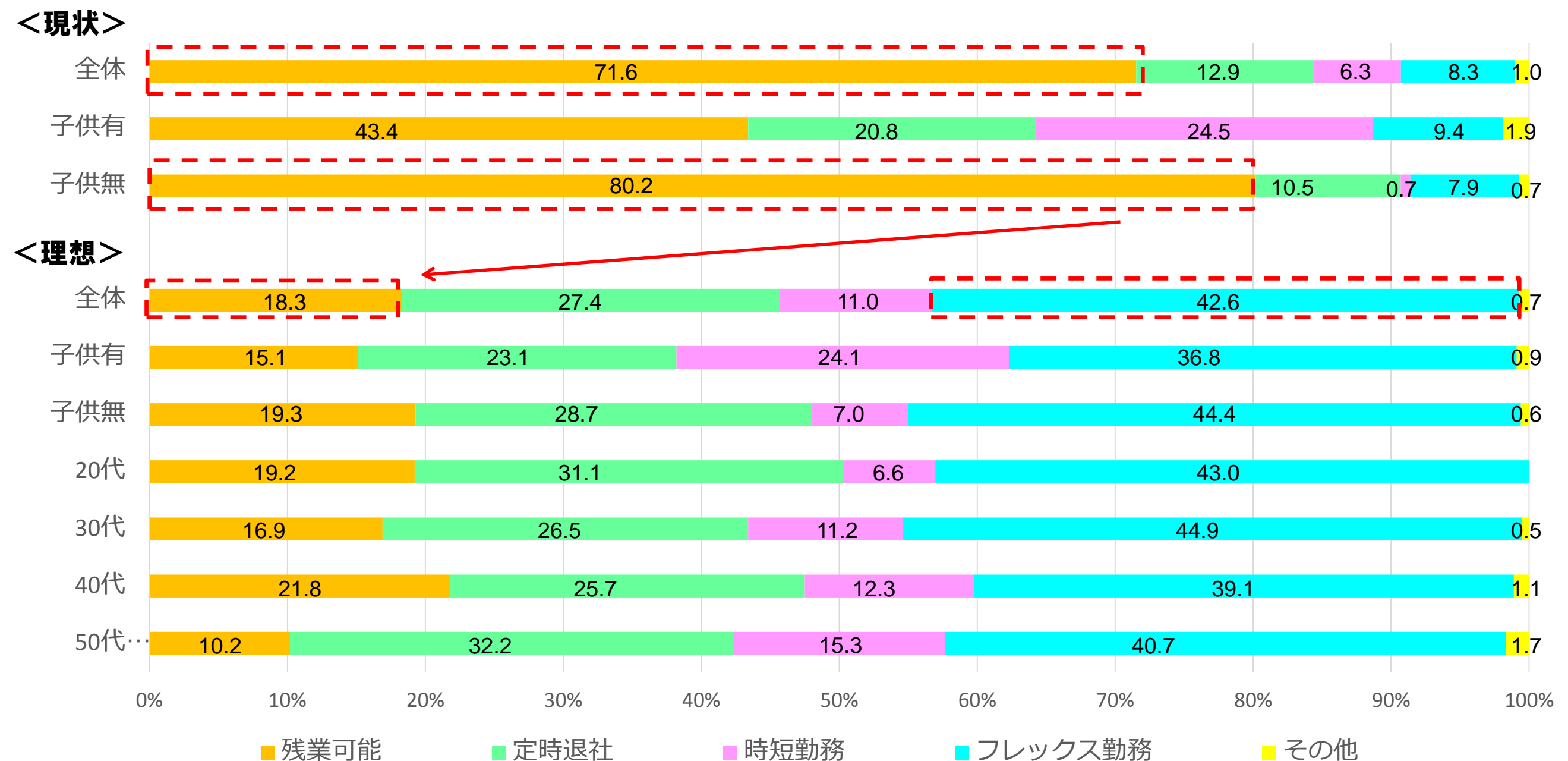
働く場所の理想と現実

- ◆現状はほぼ「主にオフィスで」働いている。
- ◆理想は「働く場所は決めずに自由な場所で」働きたいが増える。特に20代に顕著。



働き方の理想と現実

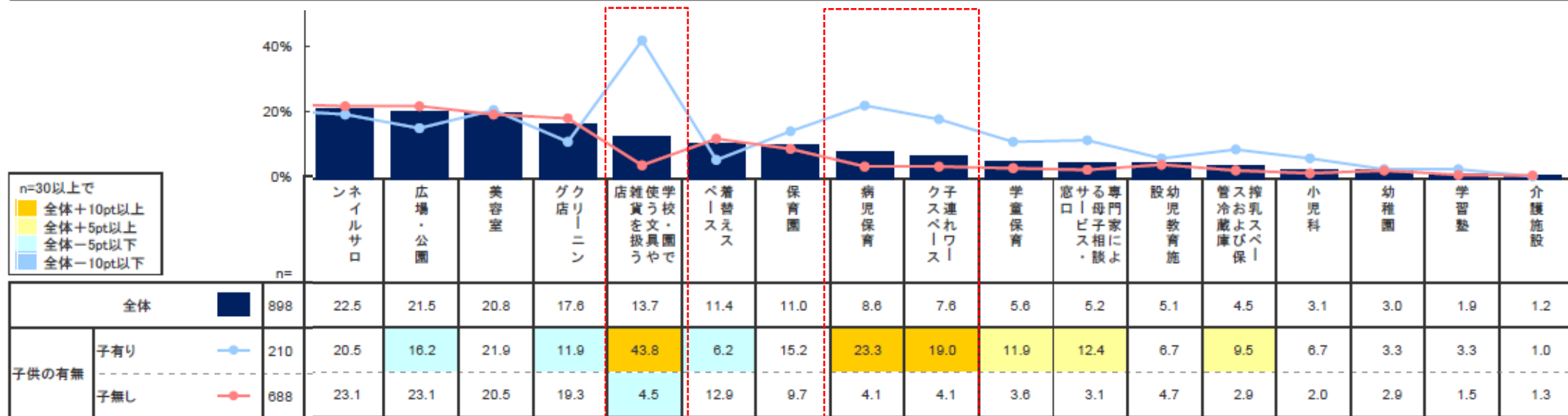
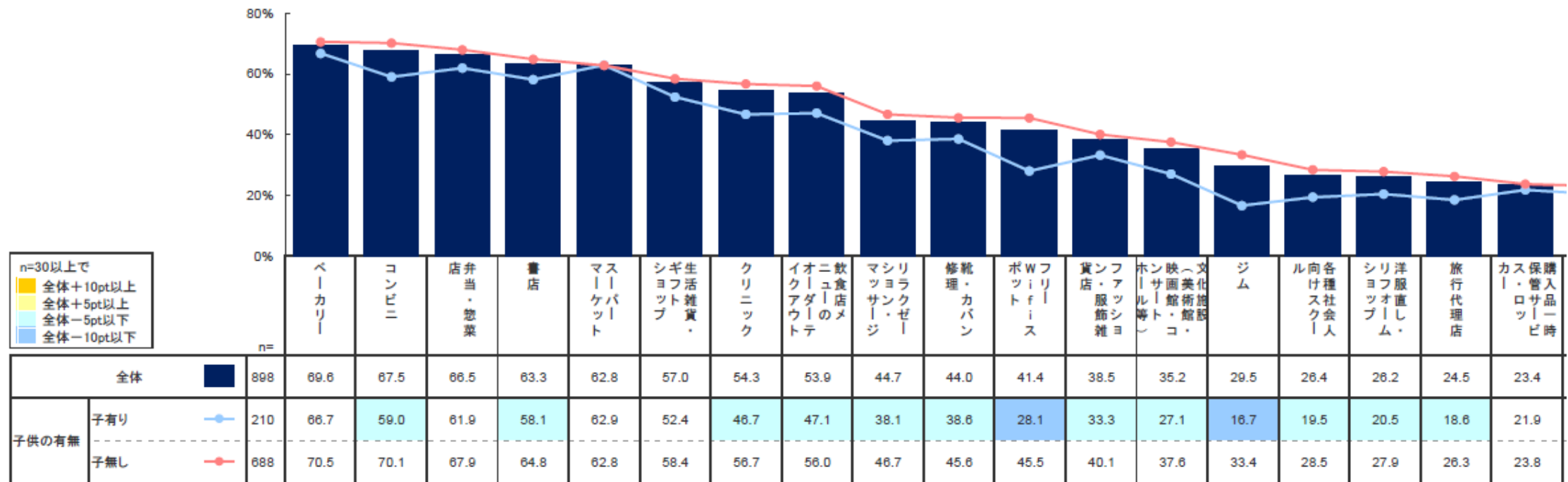
- ◆現状は全体の7割、子供無しでは8割が残業を行う働き方。
- ◆理想の働き方では、「残業可能」の割合が減少し、「フレックス勤務」の割合が増加。



オフィスの近くに欲しい施設

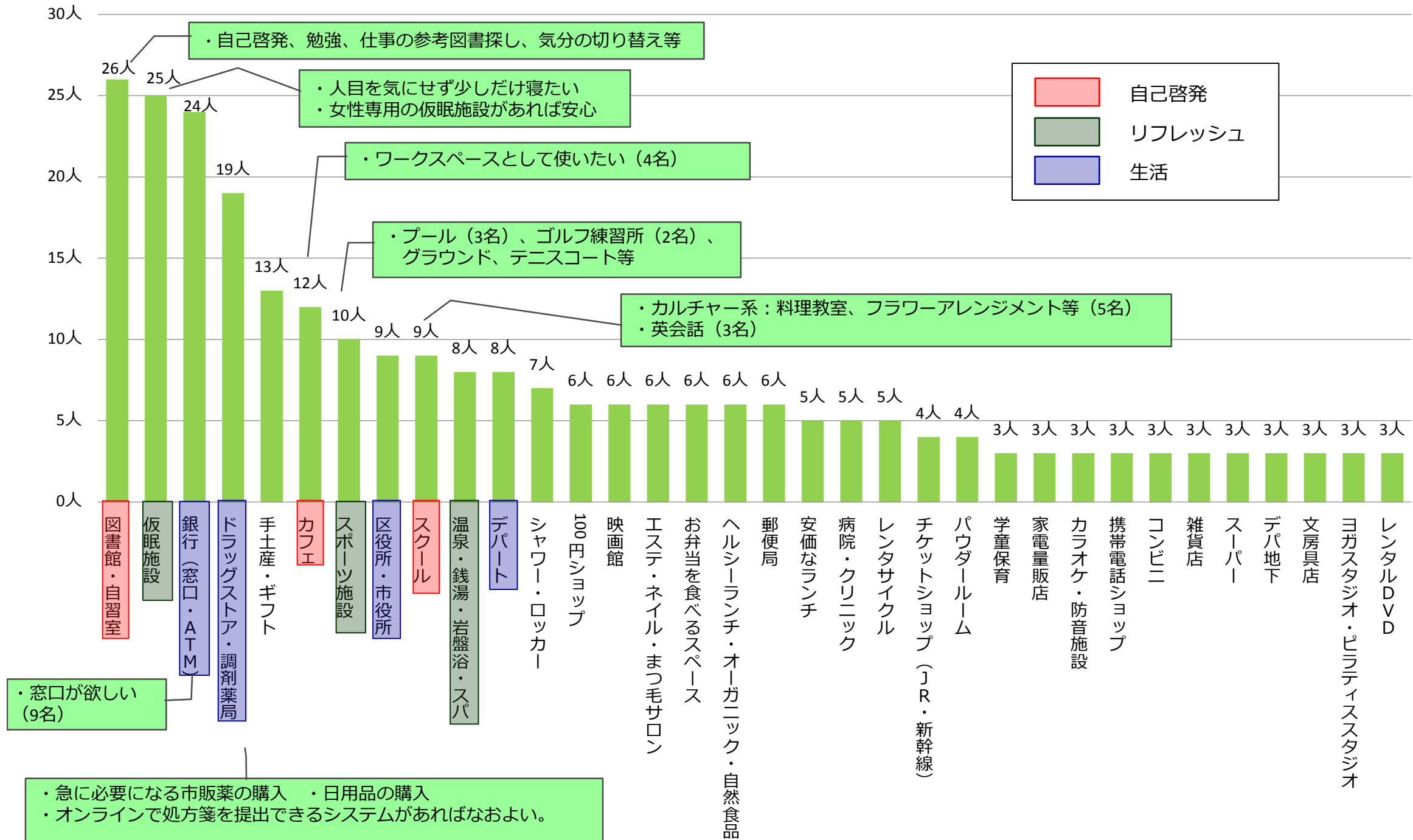
◆ベスト5は「ベーカリー」「コンビニ」「弁当・惣菜店」「書店」「スーパーマーケット」

◆子供がいる層では「子供の文具や雑貨」「病児保育」「子連れワークスペース」ニーズも。



オフィスの近くに欲しいサービス（自由記述）

◆ 「自己啓発」や「リフレッシュ」といった自分へのサービスや、「生活」に関連した家族へのサービスに対するニーズが強い



働く女性のワーク・ライフに関する調査のまとめ

- ◆ オフィスで働く女性は**ワークもライフも重視**しているが、出産を機に、**仕事とプライベートの両立**への意識がより高くなる。
 - ◆ 出産後の**就業継続意向は高い**が、**キャリアアップを断念**する傾向も。
 - ◆ 一方で、子供がいる人の7割が**“出産後に仕事を辞めたい”**と思ったと回答。
 - ◆ その一番の理由は**時間の不足**に関する事。仕事・家族・自分自身の全てにおいて時間が足りない。次の理由が、**子供の教育のため**で、**教育の質**への関心が高い。
-
- ◆ 女性は職場の近くで**“生活” “自己啓発” “リフレッシュ”**等のニーズを満たしたいという意向が強い。
 - ◆ 出産後は**“子育て”**関連ニーズが加わる。
-
- ◆ 現状の主に働く場所は**“オフィス”**で、残業も可能という働き方だが理想の働く場所は、**“主に自宅”**や**“自由な場所”**が顕著に増加し、**“定時退社” “フレックス勤務”**で働きたい人も大幅に増える。

時間の不足

- ◆ 多様なオフィス環境の整備
- ◆ 複合型開発におけるサービス連携の拡充
- ◆ 診療所や検診センターに加えて、女性向け医療施設の拡充

子育てのクオリティ

- ◆ 質の高い、ワーカー向けの保育＋教育施設の拡充
- ◆ 質の高い、学童保育＋教育施設の拡充
- ◆ 病児保育の検討

キャリア支援

- ◆ 復職支援施策の拡充
- ◆ ワーカーズコミュニティの拡充
- ◆ 男性ワーカー、ワーキングファザー調査の実施

